御池大橋下流（H21.12.16）

御池大橋下流（H22.1.29）

松ヶ崎人道橋上流（H21.12.16）

松ヶ崎人道橋上流（H22.1.29）

回覧

新聞報道等について

建設交通部砂防課・河川課

日付	平成21年11月23日（月）朝刊・夕刊・Web	新聞	京都（市内、洛西、山城、丹波、丹後）毎日 朝日 読売 産経 日経	分類	河川（鴨川）ダム 海岸 砂防 災害 防災 その他

京都

鴨川中州 20年ぶり 除去へ

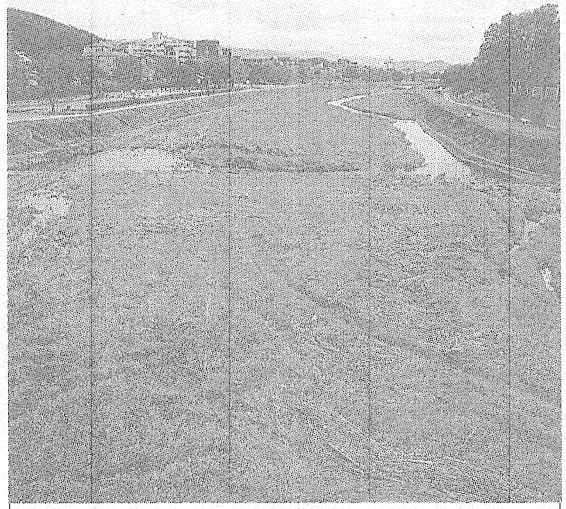
「生態系影響」で見合わせ

京都市内を流れる鴨川の中流域（七条大橋―柊野堰堤）で、京都府は来年1月から中州の除去工事を始める。鴨川の中州除去は1989年以来20年ぶりで、水生生物や鳥類など生態系にも配慮し、今後10年間かけて場所ごとに土砂の除去方法を検証していく方針だ。

府、中流域で1月から

府は本年度に約1億3千万円かけ、鴨川の四条大橋―二条大橋（約1キロ）、賀茂大橋―葵橋（0・5キロ）、御薗橋―西賀茂橋（1キロ）、高野川の高野橋―松ケ崎人道橋（0・9キロ）の4区間で計1万5千立方メートルの土砂を取り除く。

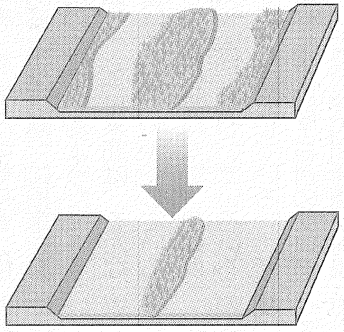
中流域では上流から流れ出る土砂が堆積し、川幅の大半を雑草の茂る中州が占めている場所もある。府の推計では現在約5万立方メートルが堆積している。このため治水上の緊急性が高い四条大橋―二条大橋間では、水が流れる面を確保するため、来年度までの2年間で川底が水深約10



土砂が堆積してできた鴨川の中州（京都市北区、西賀茂橋から下流を望む）

治水 環境 景観 バランス模索

二条大橋～柊野堰堤の中州の管理イメージ



チセンになるよう全面的に中州を除去する。

残る3区間を含む二条大橋―柊野堰堤間では、自然環境の激変を避けるため、区間内の2割程度の中州を残し、中州周辺に野鳥や水生生物が集まる浅瀬や、水際に緩やかな傾斜を設けるなど形状にも工夫を凝らす。

府は89年まで毎年、鴨川の中州を全面的に拡散させて平らにならす工事を続けてきたが、日本野鳥の会などから工事に疑問の声が上がり、工事を控えてきた。

今後、10年に1度のサイクルで段階的に除去する計画で、土砂の移動状況や生態系の変化を検証しながら鴨川独自の中州の管理方法を探っていく。府京都土木事務所の小泉和秀所長は「治水、環境、景観がバランスよく保てるように試行錯誤し、鴨川にふさわしい中州管理を探りたい」としている。

日本野鳥の会京都支部の中村桂子副支部長は「中州は野鳥が安心して羽を休める大切な場所。本当に8割も中州を除去する必要があるかは疑問も残るが、中州が発達しすぎて市民に治水上の不安を与えているのならやむを得ない」と話している。

（広中孝至）

11/23 京都